

◆コンテナ苗による造林方法、施業方法の開発・導入

福島森林管理署、福島森林管理署白河支署、棚倉森林管理署（福島県）

【取組概要】

コンテナ苗を用いた実証的な植栽事業を行い、普通苗との比較による作業工期、生育状況等のデータを収集し、低コスト造林の確立を目指す。

※ コンテナ苗とは、専用の育成容器を用い培地付きの苗木で、植付作業やその後の下刈作業等の効率化が期待されている。

【取組状況】

＜コンテナ苗の新植実績＞

○H21年度

・福島署 : スギ 4.03ha 9,700本 秋植え

○H22年度

・福島署 : スギ 3.16ha 7,600本 春植え

カラマツ 3.96ha 7,900本 春植え

・白河支署 : スギ 1.00ha 2,400本 秋植え

・棚倉署 : スギ 0.87ha 2,100本 秋植え

＜作業工期＞

○福島署 : 作業工夫により、普通苗の1.5倍程度向上。また地拵を省略しても、普通苗と同等以上の効率を確保

○白河支署 : 工期把握のため、専用器具2人組作業、専用器具1人作業、唐鍬1人作業の3パターンでの作業時間を比較。専用器具と唐鍬1人作業が、同程度の工期となった。

○棚倉署 : 作業効率は、普通苗の約半分植付経費は、苗の価格が普通苗の約2倍のため、全体として普通苗の約1.6倍の経費がかかった。

＜生育状況等＞

- ・ 成長状況として、スギに肥大成長が大きい傾向が見られた。
- ・ 秋植えの一部で野兎・寒風害の被害が認められる。
- ・ 福島署では、福島県林業研究センター及び阿武隈川流域林業活性センターと連携し、現地検討会や成長量調査等をするなど、幅広く情報の提供を実施

＜まとめ＞

- ・ 普通苗に比べ、作業工期は有利であるが、コストの面で課題が残る状況
- ・ 成長量については、現時点で有利性は明らかではなく、データの蓄積が必要
- ・ 野兎による食害・寒風害も報告されているため、植付時期等の検討が必要

【今後の予定】

引き続き、各署において生育状況、獣害及び気象の影響等を定期的に調査し、データの蓄積を図るとともに、下刈等への影響を調査検討する。



現地検討会（福島署）



実際に植付を体験



コンテナ苗



植付専用器具